

県北地域

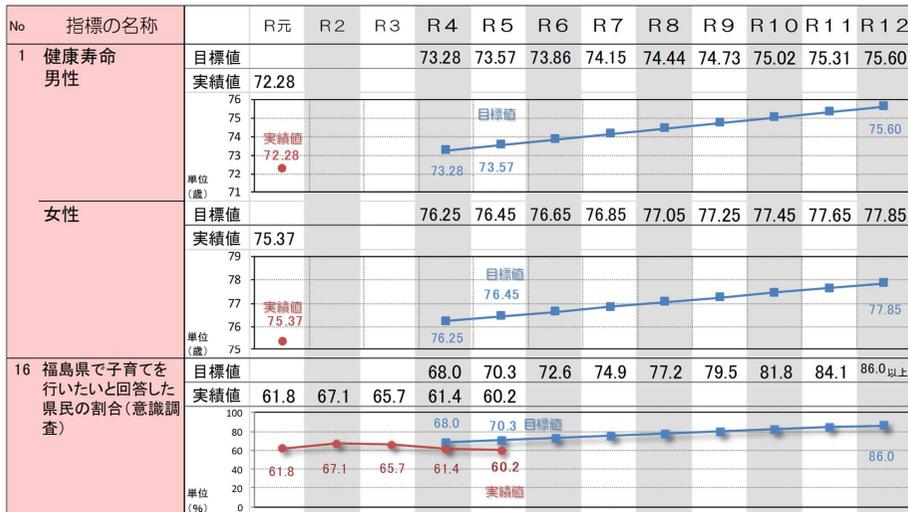
資料1-2

県北地域の目指す方向性
 豊かな自然や都市機能、交通インフラをいかし、地域経済を支える産業の振興や多彩な交流を通じた地域活性化を図るとともに、誰もが安心して暮らせる環境づくりを進めます。

主要施策1「誰もが安心していきいきと暮らせる環境づくり」

- ①・妊婦や子育て世代の相談対応
 - ・子育て世代包括支援センター（R6.4月より「子ども家庭センター」）の機能充実等
- ②・ふくしまGAP（FGAP）の推進、ふくしまHACCPの導入促進
 - ・県北地方ならではのブランド力の強化
- ③・悩みを持つ児童や生徒の相談に対する専門家による支援
 - ・障がいのある子どもたちが安心して学べる環境の充実
- ④・バランスの良い食生活、適度な運動、検診受診の普及啓発
 - ・地域や職場等での健康づくりの推進
- ⑤・保健・医療・福祉の教育カリキュラムの策定、効率的な教育体制の構築

主要施策の進捗状況 ○目的 ●実績 ◎成果・方向性



【市町村妊娠出産包括支援推進事業】：①

○市町村が設置するセンターの機能充実と妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築

- 関係機関の情報交換会
市町村への訪問によるヒアリングを年2回実施、母子保健連絡調整会議を年2回開催
- ◎令和6年4月1日現在、県北8市町村のうち7市町村でこども家庭センターを設置。センターの運営状況確認や会議開催時期の見直しをしながら継続していく。

【ふくしまHACCP導入推進事業】：②

- 食品の安全性の確保・県産加工食品の風評払拭
- 導入支援研修会 5回（R5 R4比3回増）
受講者数 45名（R5 R4比22名増）
- ◎導入支援研修会の参加者は前年度より増加しているものの、さらなるHACCP導入の推進と定着を図るため、引き続き食品事業者に働きかけていく必要がある。



ふくしまHACCPロゴマーク

【「個別の教育支援計画」の作成と活用の促進事業】：③

- 障がいのある児童生徒のニーズ把握・長期的な視点で一貫した教育的支援を行う
- ・個別の教育支援計画の引継ぎ活用率：82.3%
特別支援学級：87.4%
通級による指導：76.9%
通常の学級：77.8%
- ◎乳幼児期から学校卒業まで切れ目のない支援と学びが繋がらない現状があることから、通常の学級の児童生徒を中心に、より一層の引継ぎ活用に取り組むことを促していく必要がある。

【地域保健・職域保健連携による生活習慣病予防対策推進事業】：④

- 生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制の整備
- ・県北地域保健・職域保健連携推進連絡会開催（2回）
・「元気で働く職場」応援事業モデル事業所への巡回支援等（2回）
・健康経営、働きざかりの健康づくりに関する情報発信
・働きざかりの健康づくり研修会
（ZOOMと参集によるハイブリッド開催）参加者：58名
- ◎地域課題に即したテーマ設定やオンライン開催により、参加しやすい体制を整備した。引き続き、研修会及び健康情報について発行物等により普及啓発を図る。



「元気で働く職場」応援事業

【食習慣・肥満等の健康教育に係る専門家派遣事業】：⑤

- 健康課題の解決や健康教育の充実
- 医師等の専門家派遣
・小学校2校、高等学校1校、特別支援学校1校
- ◎肥満傾向児の出現率は、男女とも全国平均より高いことから、引き続き事業を推進。

その他の主な取組

- ・ひとり親相談①
- ・子ども健やか訪問事業①
- ・第三者認証GAP等取得促進事業②
- ・「ふくしまプライド。」県産農林水産物販売力強化支援事業②
- ・スクールソーシャルワーカー派遣事業③
- ・特別障害者手当等給付事業③
- ・障がい児（者）地域療育等支援事業③
- ・誰一人取り残さない教育体制事業「地域支援体制事業」③
- ・スクールカウンセラー派遣事業③
- ・食生活改善推進員育成支援⑤



スクールカウンセラー等地区別研修

主要施策2「多彩な交流を通じた地域の活性化」

- ① 県北地方の文化や歴史などの「誇り」に光を当て、地域を元気にする住民主役の個性と魅力ある地域づくりを支援
- ② ライフスタイルの多様化等を踏まえた移住・定住の推進
 - ・ 交通アクセスの優位性を踏まえた地域間交流による関係人口の拡大
 - ・ 小、中、高での県北地方の歴史・文化等の理解促進、地域コミュニティを担う人材育成
 - ・ SNS や動画による四季を通じた魅力の発信
 - ・ 農作物の収穫などの体験メニューの充実、着地型観光の推進
 - ・ 外国人誘客の促進

主要施策の進捗状況 ○目的 ●実績 ◎成果・方向性

No	指標の名称	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
277	移住者数 (R6.3月見直しによる指標の追加)	目標値				3,000	3,214	3,429	3,643	3,857	4,071	4,286	4,500
		実績値			2,832								
100	観光客入込数	目標値			42,000	47,000	52,000	57,000	57,600	58,200	58,800	59,400	60,000
		実績値	56,344	36,191	35,454	47,687							

【地域創生総合支援事業（サポート事業）】：①

○県民が主役となり個性と魅力ある地域づくりを推進

- 民間団体や市町村等が行う地域振興の取組を支援
 - ・ 補助件数 22 事業
 - ・ 実績額 70,480 千円

◎地域の課題を踏まえ、地域の特性をいかにしながら地方創生に寄与する取組を支援し、県北地域の振興につながった。引き続き、地域振興の取組を支援するとともに、事業周知の情報発信を強化していく。



大学生との屋敷道再生

【定住支援ハンズオン事業】：②

○地域の人や団体とつながりを持ち、地域への愛着を深め、定住を支援

- ワークショップ 福島市：7回延べ61名、伊達市：1回8名
 - ・ フィールドワーク（伊達市、二本松市）伊達市：29名、二本松市：10名
 - ・ フォローアップ座談会：10名

◎ワークショップを参加者固定の連続と単発の2パターンで実施し、多くの参加につながった。地域コミュニティと移住者等の橋渡しをすることで、地域への定着を更に促進する。



フィールドワーク（二本松）

【広域的連携による交流イベントの実施】：②

○隣接他県と連携し、近隣観光（マイクロツーリズム）の需要取り込みを図る。

- 観光や特産品等をPRする交流イベントを実施
 - ・ 令和5年11月3日（金）～4日（土）道の駅ふくしま
 - ・ 来場者数：8,899名



交流イベント「つながるフェスタ」

◎飲食スペースを設置したことで、多くの来場者があり、地域の魅力をPRへ繋がった。将来的な地域定着の視点から地域の高校生にも参加してもらう。

【親子で体験！里山の魅力ふれあいプロジェクト】①

○若い世代に過疎・中山間地域への愛着形成を図る

- 伊達市産の「ふくしまの桃」収穫体験
 - 参加者：親子7組23名
 - ・ 前田遺跡（川俣町）で出土した漆のおしゃれなアイテムづくり
 - 参加者：親子6組18名
 - ・ 宿場町根子町宿（福島市）に伝わる根子町人形づくり
 - 参加者：親子7組17名
 - ・ 県北産の果物を使ったオリジナルグラノーラづくり
 - 参加者：親子6組13名



「ふくしまの桃」収穫体験

◎ワークショップを通して、子ども達の地域の魅力への気付きや地域への愛着の形成につながることができた。引き続き、親子参加型のワークショップを通じて地域の魅力に触れる機会を増やす。

【農山村で輝く女性の地域活性化事業】：①

○農村地域における人材の確保・育成や農業・農村の活性化

- 地域活性化をテーマとした講演や、県北の農山村地域で活躍する女性3名によるパネルディスカッションを実施。
 - 実施日令和6年1月16日（火）
 - 参加者：76名



農山村における地域活性化のための輝く女性サミット

◎6次産業化等による地域への付加価値や地域産業の持続可能性など、女性の活躍による更なる農山村地域活性化の可能性が明らかになった。今後は、令和4～5年度の取組で得られた成果や課題を、農家民宿の体験メニュー等に反映する。

その他の主な取組

- ・ 移住コーディネーターによる移住相談対応等②
- ・ 移住相談会、移住セミナー等の開催②
- ・ 地域学校協働本部事業（地域学校協働活動の部・放課後こども教室の部）②
- ・ 道徳教育総合支援事業（ピュアハートサポートプロジェクト事業）②
- ・ SNS等による情報発信②
- ・ 県外教育機関と連携した情報発信②

主要施策3「地域経済を支える産業の振興、人材の育成・確保」

- ①・輸送用機械・情報通信用機械産業に加え、再生可能エネルギー、医療関連産業やロボット関連産業等の企業誘致、人材育成の推進
- ②・小学校段階からの継続的なキャリア教育の推進
 - ・県立高校における職業観や進路意識の醸成
 - ・地域で働くことの魅力の発信、地元への就職促進
- ③・新規就農者の技術習得、農地確保等への地域全体の支援体制づくり
 - ・先端技術導入による生産拡大、6次化推進などによる所得の向上
 - ・遊休農地の解消や防護柵の設置など、鳥獣被害防止対策の推進
- ④・経営者へのセミナー等を通じた創業・事業承継の促進
 - ・空き店舗を活用した起業支援等による商店街の活性化、地域の魅力向上

主要施策の進捗状況 ○目的 ●実績 ◎成果・方向性

No	指標の名称	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
233	新規就農者数	目標値			240	260	370	375	380	385	390	395	400
		実績値	212	204	233	334	367						
260	新規高卒者の県内就職率	目標値			82.0	82.05	82.1	82.15	82.2	82.25	82.3	82.35	82.4
		実績値	81.9	81.9	82.7	83.7	82.8						

【地域のしごと魅力体感・つながりづくり事業】：①・④

○地域企業の魅力や県北地方の魅力を発信し、人材育成と若者の定着を図る。
 地域企業とイノベ機構のつながりを支援し、イノベ構想の波及促進に努める。

●親子体験バスツアーの実施（全6回132名）

- ・ロボット体験コース
- ・空のお仕事体験コース
- ・水素カー組立体験コース
- ・先端農業体験コース

地域企業とイノベ機構のつながりをつくるため
 企業訪問を実施

- ・情報提供 22件

（うちイノベ機構職員同行 13件）



親子体験バスツアー
 （空のお仕事体験）

◎親子体験ツアー参加者からは、地域企業に対する興味・

理解が深まり、県内で働くことを意識したなどの満足度の高い声が多くあった。また、企業訪問による個々の企業のニーズ把握や各種助成制度の案内により、イノベ機構の取組と繋げることができた。今後は、イノベ構想で認知度の低い分野に係る体験の機会を設け認知度向上を図るとともに、イノベ機構等と連携の下、管内企業のイノベ構想に対する当事者意識の醸成を促進する。

【専門高校生による小中学生体験学習応援事業】：②

○児童生徒のキャリア教育の推進

- ・講師校 福島商業高校・福島明成高校・福島工業高校・二本松実業高校
- 体験校 大笹生小学校、吾妻中学校等

◎専門高校への憧れを持ち、物作りに対する関心を引き出すことができた。今後は、実施校数を増やし、高校生及び小中学生がそれぞれの体験を通じ、自己実現に向けた意識の向上が図られるよう取り組む。

【県北地方人材確保・働き方支援事業】：②

○高校生に地元中小企業の魅力を伝え、若者の定着を図る。

- ハンドブック「ジモトヒカル」の作成・配布と掲載企業の紹介動画の配信
 - ・配付部数：約4,000部
 - 配布先：高校20校（新高校2年生及びその保護者）等

◎卒業後に就職を希望する生徒だけでなく、進学を希望する生徒に対しても将来的な還流を意識した情報発信ができた。引き続き進路に関わらず、全高校生等を対象とした内容とし、更にニーズに沿った掲載内容となるよう充実を図る。



「ジモトヒカル」の作成・配付

【ふくしまの次代を担う新規就農者支援事業】：③

○新規就農者の確保・育成・定着

- 県北地方の新規就農者 ・令和5年度 96名
- ◎引き続き、県北地方新規就農者等確保・育成連携会議新規就農相談会、新規就農者向け研修会などを開催し、新規就農者の確保育成を図る。また、新たに設置された福島県農業経営・就農支援センターと連携し、就農・定着から経営発展まで一貫した支援を展開する。



県北地方特産のあんぼ柿

【地域の力で進める！鳥獣被害対策事業】：③

○地域ぐるみで取り組む効果的な鳥獣被害防止対策を支援

- 野生鳥獣による農作物の被害額：令和4年度約5,400万円
 （ピーク時：平成26年度 9,900万円）

◎集落環境点検で集落の現状を住民自らが確認し、対策について検討することで、集落の自助・共助意識の醸成に繋がった。対策勉強会により、対策知識や技術が向上した。引き続き各モデル集落の取組を支援するとともに、成果の横展開を図る。

その他の主な取組

- ・キャリア教育推進事業②
- ・普通科における特色あるコース制推進事業②
- ・次世代育成支援企業認証制度④
- ・スマート農業プロセスイノベーション推進事業③
- ・高校生 meet up!ふくしま！プロジェクト②



高校生 meet up!ふくしま！プロジェクト

主要施策4「災害に強く、持続可能な生活を支える基盤の整備」

①・広域交流を促進する道路整備

- ・地域連携道路の整備推進、地域の安全で円滑な通行の確保

②・危機管理型水位計等の設置、命を守る行動につながる分かりやすい情報発信

- ・消防団員の確保など、地域防災体制の維持・強化

③・災害に強い社会基盤の整備

- ・多面的機能（里山環境保全等）の維持・増進

主要施策の進捗状況 ○目的 ●実績 ◎成果・方向性

No	指標の名称	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
113	自分の暮らす地域は、自然災害や大規模な火災などに対して安心して暮らせる災害に強い地域だと回答した県民の割合(意識調査)	目標値			47以上								
		実績値		47.1	48.0	48.0							
271	交通ネットワークや情報基盤が十分整備された地域に住んでいると回答した県民の割合(意識調査)	目標値			38.5	42.0	45.5	49.0	52.5	56.0	59.5	63.0	66以上
		実績値	36.7	31.2	35.0	31.9	31.8						

【広域的な連携・交流を支え県土の活力を高める道づくり（県道上名倉飯坂伊達線）】：①

○県北地域の自然豊かな地域資源を結び県内外の広域交流を促進

●大笹生2工区においては、現道拡幅やバイパス整備に必要な用地買収を進め、天戸橋工区については、全ての橋梁下部工に着手した。

◎東北中央自動車道へのアクセス道路として、福島大笹生IC周辺の県道上名倉飯坂伊達線大笹生2工区や天戸橋工区の現道拡幅やバイパスを整備する。

【安全に安心して暮らせる道づくり（県道岡部渡利線 外）】：①

○安全な歩行空間の確保や都市内の移動時間短縮

●8か所の歩道整備事業と4か所の交差点改良事業を進めており、県道岡部渡利線の交差点において地下歩道出入口6か所のうち4か所について改良工事を実施した。

◎出入口の改良により、見通しが広がり、交差点通行時の安全性が向上した。引き続き、整備事業及び改良事業を進める



岡部渡利線 交差点改良

【河川流域総合情報システム事業(命を守る情報発信の強化)】：②

○迅速な避難を促し地域住民が命を守る行動ができるよう、情報発信を強化

●・危機管理型水位計設置107基設置完了（計画107基）

- ・河川監視カメラ設置73基設置完了（計画73基）

◎地域住民の避難判断や避難経路決定に有益な情報の発信強化につながった。

【浸水想定区域図の作成】：②

○迅速な避難を促し地域住民が命を守る行動ができるよう、情報発信を強化

●洪水浸水想定区域図 小規模河川5河川を作成、5河川を公表

◎情報発信の強化が図られるとともに、市町村のハザードマップ作成に向けた基礎資料として供することができた。引き続き9河川の公表に向けた協議と4河川の区域図を作成する。

【消防団員入団促進事業】：②

○消防団員の確保

●市町村、消防団と連携して、管内の8事業所に対して要請活動を実施

消防団員入団促進に係る消防庁作成ポスター、リーフレットを管内の事業所（約4,500か所）等へ配布

◎関係者の情報共有と理解促進が図られた。

引き続き、市町村、消防団と連携して、管内事業所等に対する要請活動や広報活動を効果的、効率的に実施する。



要請活動

【土砂災害防止対策事業】：③

○地震や豪雨等により発生する土砂災害から県民の命・財産、生活や経済活動等を守る

●要配慮者利用施設のある要対策箇所42か所(18か所は既に完了)のうち6か所の対策工事のための測量設計と1か所の対策工事を進めた。

◎引き続き要配慮者利用施設のある対策箇所2か所の対策工事を進める。また、福島市の東八川の対策工事を進める。

【農村地域防災減災事業（防災重点農業用ため池緊急整備事業、ため池整備事業ほか）】：③

○耐震性の向上、豪雨による決壊の防止、洪水調節機能の付与・増進

●成田溜池地区（桑折町）において工事に着手（工期：R5～R7）

◎荒池地区（大玉村）において堤体盛土が完成、波除工・安全施設の整備を行い年度内完成を図る。また、高谷沼地区（福島市）において事業に着手する。

その他の主な取組

・地域連携道路等整備事業(国道349号 梁川バイパス)①

・橋梁耐震補強事業③

・河川災害関連事業（令和元年台風）③

・阿武隈川本川の背水対策（令和元年台風）③

・治山事業③



河川災害関連事業